



静岡県立沼津商業高等学校同窓会
〒410-0917
静岡県駿東郡清水町徳倉1205
TEL 055-932-5747 (FAX共用)

同窓会の皆様へ



学校長
土屋尚志

日ごろ同窓会の皆様には大変お世話になっております。心よりお礼申し上げます。

昨年に続き本年もバドミントンの尾崎君や簿記部が全国大会に出場する。また、他の部活も努力してその成果をあらわしている。勉学の面でも、新しいビジネス科の優れた面を追求し、将来にも備えている。そして諸先輩の経験を参考に、さらには、厳しい社会を乗り切った教訓、世界を広く深く観察し、着実に歩む姿から多くを学ぶよう、生徒にはいつも指導している。

先日、同窓会の太田徳雄会長と水上博道副会長に同道し、阿部英雄富士経済グループ会長にお目

かかった。阿部基金や「群書類従」

寄贈のお礼を述べたが、その折阿部さんから、将来を担う生徒の向学心や学問の奨励がなにより大切で、学校にはその責任があるし、期待をしたいとお考えを伺えた。

日本はもとより世界の経済・商業界に多大な影響と貢献をされた阿部さんが「自分の生活を支えてくれた基盤は沼商にある。」と仰られ、胸が熱くなった。

同窓生のみなさんには、様々な形でお世話になります。今後ともご支援よろしくお願い致します。

同窓会に
参加して



田中佳一
(高二十八回)

第五十一回同窓会総会は、平成十六年一月十八日「出会い・感激そして明日」のもと開催された。

われわれ二十八回生は二度目の当番幹事となったが、どちらかといえ、勝手も分らず使い走りの感のあつた前回とは異なり、その責任の大きさを肝に命じていた。しかしまたもや「一体なにをやれば良いのか？」との自問に、戸惑いと不安とが交差していた。

今回の当番幹事は十四回生が中心となり、総会後の懇親会の大筋はまとめられていたし、十四回生から私たち二十八回生は、補佐役を務めるよう指示を得ていたので、私たちはそれに従い大役を果たすことが出来たと思っている。

とはいえ、何よりも準備の大変さは重々承知していたので、私たち二十八回生は、その志気を高めるための集まりを平成十五年の八月にもち、総会を成功させるには、何をおいても出席者を拡大させることであるとの認識に立ち、これを目標にまず、結束を図った。

さて、今後の同窓会は、女性会員の大幅な増加など新しい局面を迎え、改善してゆく問題等々がある。なによりも総会には「出席第一」が命題だと思う。特に若い世代の出席を切に望んでいる。常任幹事会も高二九回以降の出席がほとんどみられないということ危惧している。

これからの同窓会の発展を改めて考え直さなくてはとの思いの強く残った総会であった。

第五十二回同窓会総会の「案内」

「つなごう友情
輝け沼商スピリット」

第五十二回同窓会総会を左記の日程により開催します。数多くの同窓生の出席を期待してご案内いたします。

記

日時 平成十七年一月十六日(日)
場所 ホテル沼津キャッスル
受付 十二時三十分
総会 十三時三十分
懇親会 十四時三十分から
会費 六千五百円
十七時まで

(事前振り込み者)
当日払い七千円

申し込み法・新聞広告掲載希望など詳しいことは、折り込みの「第五十二回同窓会案内」をご覧ください。

同窓会年会費を納めよう!

沼商同窓会はいまや二万人に達するほどの大所帯となった。

この大所帯を運営して行くには、それなりに大きな経費を必要とします。それはひとえに同窓生皆さんからの会費で賄われるという事です。現状はまだ、一割程度の納入しかありません。

一人でも多くの会員が二千円也の年会費を納めよう。

定時制の現況について



教頭 加藤 忠

平成十六年度の定時制教育振興会総会には、横山開一会長はじめ多くの役員のご出席をたまわり厚く御礼申し上げます。

また、同窓会の皆さんからの日頃のご支援にも心から御礼申し上げます。

入学生が多様化

左の表は、平成十年度から十六年度までの入学者数を示している。それによると、入学者数は平成十四年度からやや増加に転じ、特に女子の入学者の増加が目立っている。

ところで、かつて、定時制高校は経済的な事情で全日制へ進学できなかつた生徒の、勉学の場として大勢の生徒が学んでいた。

年度別入学者

年度	男子	女子	合計
平成10年	5	4	9
11年	7	5	12
12年	4	7	11
13年	3	7	10
14年	5	15	20
15年	7	15	22
16年	4	13	17

昭和四十年代の前半頃は、沼商定時制も、一〇〇名を前後する卒業生を送り出していった(下表)。しかし、近年定時制の門をたたく生徒は減り、また、経済的理由のみの者は減ってきている。代わって増えてきたのが、家庭や本人の様々な事情で全日制へ進学できなかった生徒の学びの場としての役割である。そういう意味で、定時制の生徒も多様化してきていると言える。

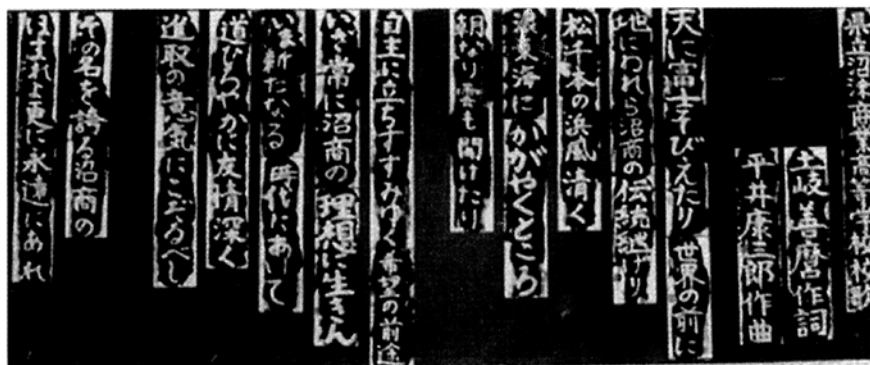
多様化への対応

こうした、入学生が多様化に対応して、先ず、平成十五年度の入学生から、自校三修制コースがスタートした。これは全日制と同じように三年間で卒業したいという生徒に対して、二、三年生で一日六時間の授業を受けることにより卒業に必要な単位を取得できるようにしたものである。もちろん、ゆつくり学びたいという生徒も多いので、そういう生徒は、従来からの一日四時間の授業を学ぶことになる。また、商業科の一部の授業では、生徒の習熟度別の集団編成にして、学力差や目標に応じたきめ細かい学習を行っている。

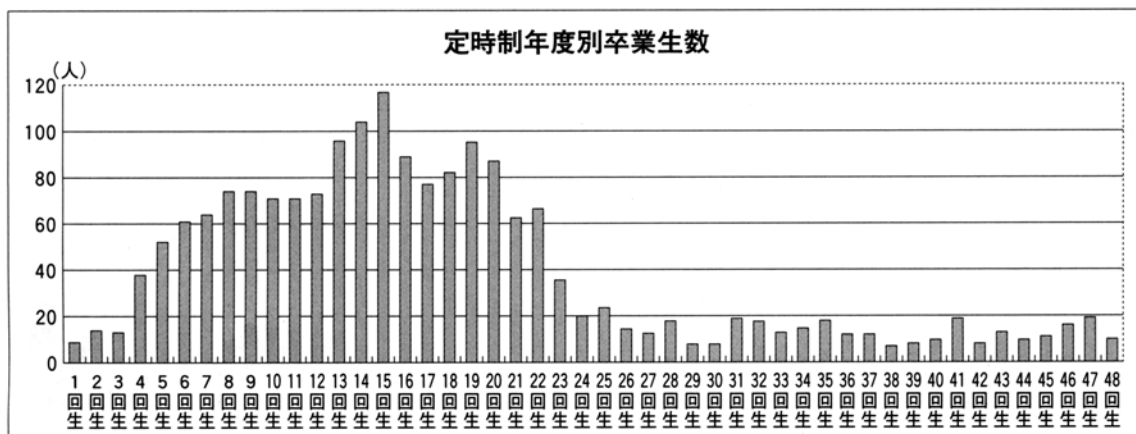
沼商の伝統は

年間行事を見ると、「生活体験文発表会」や「東部定時制高校合同文化祭」など長く続いている定時制ならではの行事がある。写真

は平成十六年の一月十七日にコミニューティー長泉で行われた「東部定時制高校合同文化祭」の展示品の一コマである。一年生全員の書道作品(筆に溶かした蠟をつけて書いた校歌)が目を引きつけた。また、伝統的に部活動も盛んで、十五年度・十六年度連続でソフトテニスが東海大会に進出した。十五年度の新体力テストでは、県下定時制二十六校中男子は三位、女子は二位となりともに優秀校として表彰された。



出展された沼商生の作品



六十年を超える長い伝統の上に、時代や地域のニーズに沿った有為な社会人の育成を目指して教職員一丸となって頑張る所存ですので、今後ともご支援、ご協力をお願いいたします。

ボクの同窓会



瀬川裕市郎

(高十回)

ボクは母校沼商の同窓会にはあまり積極的になれない。それは沼商同窓会とはなんだろうとの自分自身への問い掛けに、うまい答えが見つからないからでもある。

ボクの印象では沼商の同窓会といえ、まず、メイン行事としてお祭りが頭に浮かぶ。その次は集団による観光旅行だ。

お祭りとは旅行の同窓会では母校との関係が、まったく考慮の外にあるように思える。

同窓会というからには、まず、同窓生の親睦を図ることが第一と思える。そのためのお祭りであり、旅行というのならわからないわけでもない。同窓会には、母校との連携というか連帯のようなものも、その目的に含まれていてもよいのではとも思っている。だから在校生に奨学金を用意したり、あるいは、母校の諸々の施設などの向上に尽くしてもいるではないかと云われれば、その通りでそのことにどうのこうのと云うつもりもない。

お祭りはさておいても、海外旅行など同窓会が主催する必要があるのかどうか、今一度考えてみてはどうだろう。別に同窓会が主催して海外旅行にゆくことを、非難するつもりもないが、それが同窓会のメイン事業になっていることに少し違和感を覚える。

母校沼商はおそらく商人を育成して来た。さらには商社マンや営業マンなども育成して来た。

したがって、同窓会(生)がその基本となる商人道のようなものを、在校生に伝授するとか、在校生が商人道を学ぶための機会を提供するとか。さらには、在校生が常日頃から町の経済界(商店街)と密接に関わる手助けを、同窓会が行うとか方法はいくらかもあるように思える。

この半世紀の間に商業学校の生徒数は、二割ほど減少している。もしかしたら学校数もそれに見合っただけ減っているのかも知れない。大げさに云えば、やがて商業高校はなくなるかも知れない。その時、同窓会はどう対処するのか老婆心ながら気になりだした。

さて、同じ学舎で学び、同じクラブでそれぞれが同じような汗を流し、卒業したことが条件となつて、それぞれが同窓となつて同窓会の一員となるわけだが、それだけでは同窓会は運営されて行かない。そこにながしかの資金が用意されていなければ、およそ運営することは不可能となる。

そこで同窓生が一定額の年会費を収め、それを運営費に充てようというシステムが取り入れられた。そうしたシステムはまだ稼働したばかりで、たとえば、公表された二〇〇三年度の納入状態を見ると、およそ一七〇〇人の同窓生がそれに応じている。同窓生への周知を徹底し、納入者をさらに増やすべきであろう。

話は変わるがアメリカの年齢別人口構成比を見ると、三十歳代が最も多い。ところが我が国のそれは四十歳代であるという記録を見たことがある。これを言い換えれば、アメリカには活力が漲っているが、日本ではその勢いがアメリカほどではなく、あらゆることへの決断の速度がスローであるということかもしれない。それは同窓会も同じことで、もつと若い世代が同窓会の運営にあたるべきと思っっている。

くだいようだが、同窓会とは基本的に同窓生の親睦を目的とした集まりであり、宗教団体でもなければ、政治団体でもない。思想的に極左や極右の人もいるだろうし、中立や同窓会にも無関心な人もいると思える。それゆえ運営も難しいと思える。そういうなかで同窓生の親睦を一心に考え、あわせて母校とどう関わって行くかを考える集まりを同窓会と考えたい。やや抽象的となったが、これがボクの考える同窓会である。

この人も同窓生
立川文志とその仲間たち

高十一回生の佐藤敦之さんは、いま、立川文志というもう一つの名前をもっている。そう、佐藤さんはあの落語の立川一門の「色物真打」を努める落語家でもある。

沼津五中から沼商に進み、一旦サラリーマンとなったが、その後、落語家の道に進むという、いわば変わり種の筆頭というところ。

この八月には、富士市のロゼシアターで会場を一杯に、「文志とその仲間たち」という、日本固有の伝統文化、落語と津軽三味線などで人々の心を和ませた。



公演中の佐藤敦之(立川文志)さん

沼商時代の佐藤さんは美術部に属していたようで、卒業後もデザインを目指し就職されたようだ。しかし、おそらく伝統的な日本文化「落語」の世界に身を置き、その伝統をかたくなに守り伝えるという人生を送ることにしたに違いない。

掃除に学び人に学ぶ



大村光孝

(峰緒)
(高十回)

「社長は、素手でトイレを磨きなさい。便器の水を飲んでも平気なくらい磨きなさい。そうすれば会社は栄えます。社員はその社長の後ろ姿を觀て環境整備の意義を理解します。これがお客様第一主義の原点です。」と昭和五十七年に私の社長学の師、故一倉定先生から学んだ。

私は平成四年にイエローハットの鍵山秀三郎相談役に掃除体験をさせていただき、「目から鱗が落ち」感動したことを、いまでも忘れられない。そのことで私は改めて掃除の意義、たかが掃除されど掃除とその深さと自分の日常のおごりに気づいた。

平成五年春、鍵山相談役を囲んでの第一回経営者勉強会が開催された。

その終了間際に「もう一度、美しい日本を取り戻すためには、掃除から学ぶ大切さ、掃除の大事さを伝えるべきである。未来のために今何を成すべきか。大人が襟を正し、小人たちと共に学ぶる場

所、それがトイレ掃除である。」と参加者全員の意見が一致し、改めて掃除の意義が認識された。

平成五年十一月になると、岐阜県明智町にて「大正村掃除に学ぶ会」が産ぶ声を上げ、それを契機に全国各地に「学ぶ会」が設置され、いまでは、全国の一三の学ぶ会が各地で、掃除に学んでいる。さらに海外での活動拠点がブラジル、中国、台湾、ニューヨークにまで広がった。



富士市立第一小学校のトイレを清掃する「富士掃除の学ぶ会」会員

大正村から八年後の平成十三年春、ようやく全国八五番目の会として「富士掃除に学ぶ会」を立ち上げるはこびとなった。

その夏、八月十八日第一回目の大会を富士市立大淵中学校で開くことに決定をしたら、イエローハット富士営業所長木村さんから「さすが大村さんですね。やりませね。相談役の誕生日に第一回をぶつけるなんて。」と言われびつくりした。私は覚えやすいように、

新茶は八十八夜のゴロ合わせから取ったので、まさか尊敬し、永遠の師と仰ぐ鍵山様の誕生日が富士の掃除に学ぶ会のスタートになるとは。なにか言いしれぬ縁というか、因縁を感じ、そのことの恐ろしさ、素晴らしさに感動と喜びで胸が一杯となった。

第一回から第三回までは真夏の一日をかけて、掃除に学ぶ会を実施した。参加者の中から「暑い時だけでなく、寒い冬もやれや」「四十年もトイレ掃除をしている鍵山さんに会いたいし、話も聞きたい。」などと多くの意見がだされた。それで鍵山様の都合をうかがったところ、「平成十六年二月十四、十五日は空いている。」との返事がいただけだ。四回目はその日程で行うことにした。

さて、十四日の鍵山様の講演は「小さな実践の一步から」と題した「一人ひとりの小さな行動が、今の社会を少しずつ変えることができる。」「大人がそれぞれ謙虚な姿勢で、美しく凛とした生き方をして、子供達に手本を見せましよう。」との呼びかけであった。

九歳の曾孫、孫夫婦と一緒に参加された九十歳の加藤セツさんの話は、まさしく、大人が凛とした生き方を子供にみせたお手本そのものだったように思う。

講演が終わると、真っ赤な顔をして「ありがとうございます。バラレンタインの素晴らしいプレゼ

ントでした。」と言いながら、ペコンと頭を下げ、スタスタと帰った男子高校の生徒の後ろ姿に、「ありがとう」の一言の大切さを学んだように思う。

二日目は澄んだ青空、清々しい空気、真っ白な帽子を被った本場に稀にみる美しい富士山だった。

沖縄から参加の照屋さんはじめ、熊本、広島、仙台など全国各地からの参加者も「こんな美しい、素晴らしい富士山をこんな近くで、こんなゆつくりと眺めながら、掃除に学び、人から学ぶ機会を用意された富士掃除に学ぶ会には本当に感謝だ。ありがとう。」と富士山を絶賛していた。

いつもいつも参加される地元のみなさん、そしてはじめて参加された多くのみなさんのお力添えを得て、毎回毎回楽しく、明るく生き生きと会を運営でき心より感謝している。

日々掃除に学び、素晴らしい人生を送られている方々との一期一会の出逢いに学び「一度でわかった。」などとは言わず、「楽な人生より、楽しい人生を」を座右の銘として、これからもポチポチ、コツコツ、生きることの意味を求めて行きたいと思う。

その手段の一つとして、まず、生きることの原点に戻り「掃除に学ぶ会」にぜひ一度ご参加されることを、同窓生、在校生のみなさんにお奨めしたい。

素潜り漁の 世界に生きる



土屋満男

(高十三回)

沼商卒業生の中で、漁業に携わっている人は何人もいないだろう。そのなかでも素潜りの潜水漁業を生業としている者は、おそらく、私一人であろう。人生とはまなならぬもの、私自身まさか沼商を出て漁師で半生を送るなど夢にも思っていなかった。私が漁師の道を行んだのは二つの大きな出来事によっていた。

一つは医者の大きな誤診であった。私は十三回(高校)生で、陸上競技部に席があった。

沼商陸上部は昭和三十一年の静岡国体の頃、絶頂の黄金時代で、当時、短距離の小沢勲さん(十回生)などを中心に国体やインターハイなどで大活躍をしていた。そんな沼商に私は憧れ、網代中学から沼商へと進んだ。

私の網代中学時代は、短距離から千五百メートル、さらに駅伝では近隣の高校生さえ寄せつけぬほどの走力をもっていた。沼商一年生の時には、千五百メートルで県内高校五位にランクされ、このま

ま行けば、次の年には県下でトップになれると内心思っていたし自信もあった。しかし、そこには落とし穴があった。今にして思えば誤診だったが、結核と診断され、それで結局は陸上競技を断念せざるを得なくなった。

二つ目は母が子宮癌と診断され、しかもその余命は三ヶ月と宣告されたことにあった。三島北高を出たばかりの姉が家事を手伝う事になり、私も卒業後に父の履物屋を手伝うことに決められた。

まさか父親の稼業を継ぐなんて思ってもいなかった。当座は父を手伝い、母も何とか助けなくてはと思ったが、両親は私をずっと手許に置くつもりだった。私は「とんでもない網代のような田舎で一生を終わってなるものか。」と思い、網代からの脱出作戦を何回か試みたが、その度に父親の意向でご破算となった。

網代に留まることしかなかった私には、もう目の前の海しか残っていないかった。ところが私はこの海が大嫌い。泳ぎが大の苦手。網代中学の遠泳では、三年間とも伴走船に助けて貰う始末で、女の子でさえ完泳できる遠泳を、なぜ自分には出来ないのか、と海は好きになれなかった。おまけに私は極端な船酔いで、海を好きになれるはずもなかった。

スポーツでは万能と思いついてきた自分が惨めになった。さらに

もう一つ、小学生以来の下近眼がこれに拍車をかけた。

ところがある日、メガネの前枠をレンズごと水中メガネに貼りつけ、海の中を見ると、なんと海の中が別世界のように見えた。さらに足ヒレとシユノーケルをつけるのと、なんとなく泳げるではないか。こうなると今までの海嫌いが嘘のようになり、海に入ること何のためらいもなくなっていた。そうなると陸上競技で鍛えたおかげで、心肺機能が誰よりも強く、海に潜ってもかなり長い時間持続できた。こんどは面白いように魚が突け、貝も大量にとることが出来た。



漁船上の土屋満男さん

昭和四十五年の結婚後、私は履物屋を女房にまかせ、本格的に漁師の道に進むことにした。

網代は昔から漁師町だったが、磯に潜って貝を獲り、それを生業とする漁師はいなかった。したがって、私の素潜り漁はすべて手探り状態の連続であり、すべて私一人で経験し、また失敗を繰り返して

その中から多くを学び、少しずつではあるが自分のものとしてきた。以来四十年、いまは素潜り漁を生業とすることに自信ももてるほどまで成長した。

四十年近い素潜り漁という漁師生活、そこには楽しかったこと、面白かったこと、また不思議なことや恐ろしかったこと、時には命の危うかったことも数え切れないほどあった。そういえば船を壊した事も六、七回は下らない。もともと海嫌いで、海知らずだったが、海の恐ろしさや海の楽しさなど誰からも教えられず、アドバイスも受けずに、ようやく海が少しずつ分かりかけてきたような気がする。失敗を繰り返して、そこから何かを学ぶことの繰り返しから、自然の恵みや豊かさに感謝しつつ、自然のスケールの大きさ、自然の懐の深さに舌を巻き、自然に対し畏敬の念を抱き、また自然の変化や恐ろしさにおののき、畏怖の念を抱く。

ここまでくると両親のもとを離れられず、拘束されたような半生であったが、自然を相手に人間関係にも煩わされず、自由に生きてきたという大きな代償が得られたと思っている。

結びに特に後輩には、どんな逆境にあってもこれを乗り越える人の知恵と勇気をもって行動し、有為な人生を生き抜いて欲しい。

(平成十六年初夏)

支部だより

熱海支部の活動

支部長 杉崎 三郎
(高七回)

熱海市支部は、今年で創立四十四年目を迎えた。ずいぶん永い間支部活動に関わってきたな一と感慨深いものがある。熱海支部の活動のメインは、年一回開催の「新卒業生を迎えるための総会」である。この総会開催のため様々な準備があるが、そこでの毎年の課題は、幅広い年代層の会員が、一人でも多く参加され、楽しんでいただくには、どんな内容が求められているかということである。

昨年までは、支部の名簿に卒業生の事業所広告を掲載して、参加費の軽減に務めてきたが、参加者への景品を各事業所にお願ひし、全体的な参加費の軽減を図ってみた。

どちらかというとき若いときは先輩たちに云われるままに、行動していたが、いつの頃からか、沼商の先輩、後輩ということだけでそれぞれに信頼関係が生まれることに驚きを感じている。同窓生という懐かしい響きは、きつと、こういうことであろうと強く感じ入っている。

また、若い会員の気持ちというのは、彼らと離れていたのではまったく理解出来ないもので、少しでも接点をもつと、「ああ、こういうことをこんな風に考えているのか」といった新鮮な発見もあり、つくづく、同窓生という関係はよいものだと感じ入っている今日この頃である。

御殿場支部総会

嶋田泉太郎
(高十二回)

御殿場支部の総会は平成十六年六月十九日開かれた。そしてこの総会に女性三名の参加が得られ、支部総会が華やかになったように思う。御殿場支部だけではないと思うが、特に先輩の同窓生には、沼商同窓会といえは、「男だけ」という意識が強いように思われるが、今後、さらに女性会員の参加が増えるよう期待しておきたい。というのも、この総会の準備中、御殿場支部の会員名簿を目にしたが、高二十六回以前の卒業生二六〇人の六割が女性会員であったからだ。そうなると思身が描く沼商同窓会も大きく様変わりするに違いない。

この総会に出席された鈴木英子さん(高二十四回生)から「はじめて参加したが、大変楽しかった。」と感激されていたが同時に

「…でも、男性の方々はもっと楽しそうに見えました。」と率直な感想をいただいた。私はその感想に対して「私が沼商に通っている頃は、商店の跡継ぎが多く、勉強もしたがそれ以上にクラブ活動や遊び事に夢中だった」と在学中を懐かしく思った。女性が多くなつて行く沼商同窓会、これからどんな風が変わっていくのだろうか。

三つの行事に全力

沼商ふじの会(富士支部)
副会長 田村幸一
(高八回)

沼商ふじの会は、本年度は三つの活動目標を立てた。

まず、八月六日に行つた「立川文志とその仲間たち」の開催であった。承知のように立川文志は本校の同窓生で昭和三十四年三月卒の高校十一回生である。

そして終了後の八月三十一日には、その収益金の一部を、富士市の文化事業に役立てて欲しいと、富士市に寄附をした。

二つ目は八月二十九日に予定していた富士山中腹での下草刈りへの挑戦であったが、当日のあいにくの天気のため、残念ではあったがやむなく中止となった。

そして本会最大の行事である総会での講演はチベットの音楽家バィマー・ヤンジンさんだった。

ヤンジンさんは日本人と結婚され、日本中をチベットの歌と講演で歩き廻り、そこで得た収益を母国チベットの学校建築に当てているという。

おそらく日本と比べたらチベットは「後進国」といえるかも知れないが、私たち日本人の失つた心を愛情深く、時には鋭く見つめており、私たちが忘れかけたものを、思い出させてくれた講演となった。

定時制部会

会長 大竹清次
(定十回)

平成十六年五月二十二日(土)午後十八時より、駅前「沼津軒」八階において、土屋学校長、加藤教頭、大川会長、水上副会長、横山振興会長出席のもと「第二回沼商同窓会定時制部会総会」が会員六十六名の参加を得て盛大に行われた。

総会では平成十五年度活動報告、会計、監査報告があり、ともに承認された。また、会則の一部改正が議案として上程され、審議された。その後、役員の改選が行われ、会長に大竹清次が選出され、二期目の会長職となった。

総会終了後、大正琴の奏でられる中での懇親会となり、それぞれ旧交を暖め、次の再会を約して散会となった。

母校この一年

◆全国大会出場◆

全国高校総合体育大会
バドミントン部 尾崎 勝君
第二十回全国高等学校
簿記コンクール 簿記部
簿記I-T選手権 簿記部

◆東海大会出場◆

全国高校総合体育大会予選
ホッケー部 二位
ソフト・テニス部 定時制・女子団体

◆県大会出場◆

全国高校総合体育大会 県予選
ソフト・ボール部 ソフト・テニス部 陸上競技部 バドミントン部(女子) 弓道部 吹奏楽部
(平成十六年七月三十一日現在)

活躍する在校生

バドミントン部

インターハイ出場が決まり

三十三HR 尾崎 勝

五月に行われたインターハイ県

予選で、優勝することができインターハイに出場できることが決まった。

沼商に入学して今まで、毎日厳しい練習をしてきた。そしてインターハイや国体などの試合に出場し、いろいろな経験をしてきた。昨年は先輩を追う側だったが、今年は、三年生で後輩から追われる立場になり、厳しかった。今年、最後のインターハイということ、最後に比べて嬉しさも大きかった。



バドミントンでインターハイに出場する 尾崎 勝君

校内に練習相手がいない為、土曜日と日曜日に兄が練習相手に来てくれた。そのおかげもあって優勝することができたと思う。いろいろな人の支えがあった。今までやってこられたことに感謝したい。

インターハイ本番までの残り少ない練習時間を大切に、高校生最後の試合を悔いの残らないように、一試合でも勝ち、沼商の名を全国に残したい。(七月記)

簿記部

三年部員一同

簿記部は三年生四名、二年生三名、一年生三名の十名で活動している。そして、先頃行われた全国高等学校簿記コンクール静岡県予選大会で団体優勝することができ、全国大会への出場を決めた。

しかし、各々が満足のいく結果を出せたわけではなく、全国大会では団体優勝とともに個人での上位入賞も目指している。



簿記コンクール全国大会 参加の簿記部の面々

全国大会に挑むということは精神的にも体力的にも苦痛を伴うもので、現に点数が延びないとか、ミスが多い、全問解けないなど悩みや不安も多い。そして結果的に追いつめられる場面も多々あるが、気合いや気持ちの向上を大切に、それを乗り越えるよう頑張っている。

そうした私たちの活動に大いに期待していただき、変わらぬ応援をお願いします。

野球部

マネージャーでありがとう

三十三HR 清水 彩

七月二十二日、三年生にとつて最後の選手権で、私は三年部員十三名とともに野球部を引退した。この夏の選手権大会を迎えるまでの二年半は、決して楽な道ではなかった。部員は日々汗と泥にまみれながらボールを追い続けた。毎日が自分との戦いで、自分に負けそうになったことも数え切れないほどあった。それでも負けずに頑張り抜いた十三名。みんなと過ごした二年半のなかで、どれだけ感動や、あきらめないことの大切さを教えてもらったか分からない。マネージャーとして、部員にどれだけ役に立ったか分からないが、寒い冬、暑い夏、様々な時をみんなで乗り越え、成長して行くことができたことをうれしく思う。

「いままでありがと、マネ」夏が終わった日、部員がそう言ってくれた。「本当にみんなのそばでマネージャーができて良かった。」と心からそう思った。最後の夏の感動を私がベンチで味わうことができたのも、野球部のみんな、先生方、父兄、OBの方々を始め、応援してくれた多くの仲間たちのおかげと思っている。

事務局から
第五十二回同窓会総会を開催
会計報告・新役員など承認

「出合い・感激・そして明日」をキャッチフレーズに、第五十一回総会を、本年一月十八日(日)に例年の通り、ホテル沼津キャッスルで開催した。総会・懇親会には四二二名の会員が参加し、平成十五年度の会計・諸事業などの報告がされた。会計報告には、平成十六年四月九日付の監査報告書が添えられ、同窓会や母校の諸々の会計が、関係諸帳簿ともどもその証拠の書類など正確に処理されていることが確認された。

平成15年度 沼商同窓会育英基金会計決算報告書

平成15年4月1日～平成16年3月31日 (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期より繰越	96,336,406	15年度育英基金	2,388,298
基金会計が繰入	2,388,298	次年度へ繰越	96,861,263
15年度期間収益	524,857		
計	99,249,561	計	99,249,561

平成15年度 沼商振興育英基金会計決算報告書

平成15年4月1日～平成16年3月31日 (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期より繰越	42,549,397	第4回奨学金5人	2,500,000
15年度期間収益	614	次年度へ繰越	40,050,011
計	42,550,011	計	42,550,011

平成15年度 沼商高育英基金会計決算報告書

平成15年4月1日～平成16年3月31日 (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
育英基金	2,700,000	奨学金	1,603,200
受取利息	8	奨学費	911,960
		奨学修業費	134,428
		奨学次期繰越金	50,420
計	2,700,008	計	2,700,008

平成15年度 沼商同窓会基金会計決算報告書

平成15年4月1日～平成16年3月31日 (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越金	11,012,160	育英基金	2,388,298
受取利息	80	次期繰越金	8,623,942
合計	11,012,240	合計	11,012,240

平成15年度 沼商同窓会経常費会計決算報告書

平成15年4月1日～平成16年3月31日 (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越金	4,722,037	会報発行費	2,044,536
年会費収入	2,600,000	年会費諸費	168,285
入会金	1,110,000	名簿作成費	218,001
名簿売上金	1,098,600	会議費	101,017
記念賛助金	1,205,000	事務消耗品費	67,246
C D売上金	232,650	通信費	97,882
雑収入	17,455	人件費	638,400
		記念品費	69,720
		備品費	328,842
		慶弔見舞金	296,500
		諸雑費	28,520
		次期繰越金	6,926,793
合計	10,985,742	合計	10,985,742

さらに、十六年度の予算、事業計画ともども、満場一致でそれぞれが承認された。

そして、平成十五年度は各役員任期が満了となり、会則により役員が改選される年であった。

改選により留任も含めて、以下が次期の役員として承認された。

会長の大川徳雄(四九二回、以下括弧内は卒業回期)を始め、副会長の水上博道(高六回)、山本博信(高八回)、廣瀬忠男(定九回)、尾鷲幸正(高九回)、前田龍也(高十回)もそれぞれ再選され、そして、新たに副会長として、勝亦宗夫(高十八回)が加わり就任した。改めて会員各位の協力をお願いしたい。

午後から懇親会に移り、沢山の来賓や恩師などをまじえ、あちこちのテーブルに昔話の花が咲き、和やかにそして賑やかに会は終わることを忘れたかのように進められた。

締めくくりには旧制・新制校歌が声高らかに歌われ、またの再会を期して無事終了した。

同窓会入会式を行う

平成十六年二月二十七日、平成十五年度卒業生(全日制二七名、定時制五名)の同窓会への入会式が行われ、二二二名が新会員となった。

阿部英雄奨学金を
五人の在校生に贈呈

平成十五年度の沼津商業振興育英基金(阿部英雄奨学金)を今年も中川沙紀さん・深沢剛君・遠藤麻矢さん・大木恵さん・杉山和彦君の五人の在校生に贈呈した。

また、本年六月に沼商育英基金奨学金選考委員会が開かれ、一年生四名、二年生四名、三年生五名、定時制二名の十五名に贈呈することが決定した。この基金は、創立九十周年記念事業の一環として、計画されたもので、母校の後輩たちが、勉学にスポーツに心おきなく打ち込めるよう、同窓会会員の寄付金をもとに運営されているものである。

阿部英雄会員を表敬訪問

梅雨も中休みの七月七日、同窓会長・副会長は、学校長をとまな「沼津商業振興育英基金」(阿部英雄奨学金)の生みの親であり、また、「グローバル・マーケットイング富士経済グループ」の会長でもある阿部英雄会員を表敬訪問した。まず、大川徳雄会長から育英基金の御礼を申し述べ、育英基金の活用状況、同窓会の活動など現況の報告をし、新しく学校長に赴

任した土屋尚志学校長からも、育英基金への御礼や在校生の活動状況などの報告を兼ね、新任の挨拶をした。

今年、八十二歳とられた阿部さんは、不自由な体をものともせず、奥様に支えられて、小金井から日本橋まで出社されている。

表敬訪問の当日、阿部さんは在学中の思い出話や同期生のこと、さらには在学時の沼津のことなど懐かしそうに話されていた。

帰りに阿部さんからは、在校生に「希望と目標」をもって頑張るよう、そして、同窓生には「伝統校としての重みを意識し、地域社会に貢献」するようメッセージをいただいた。

阿部さんがいつまでも私たちを見守ってくださいよう、さらには、いつまでもお元気で活躍されるよう祈っています。



阿部会員(旧制第39回)を表敬訪問